



企画・制作
国境なき医師団日本
朝日新聞社広告局

広告特集

Frontline

国境を超えて命と向き合う

[フロントライン]

Vol.05
March 17, 2013

Feature

医師、薬剤師、メカニック、人事スタッフ……。

困難な環境下で、
専門性を備えたチームが
活動を可能にする

派遣スタッフインタビュー

「一番教えられ、
助けられているのは自分自身です」

「困難な状況に対応するとき、
何より大切なのはチームワーク!」

「内科医」
「アドミニストレーター」
「助産師」
「麻酔科医」
「HR(人事スタッフ)」
「外科医」
「産婦人科医」
「チーム」
「国境なき医師団」
「メカニック」
「看護師」
「臨床心理士」
「建築士」
「ロジスティシャン」
「薬剤師」
「小児科医」ほか



同じ地球にいて、
しかるべき医療を
受けられない人びとに
感謝され、感動する。
外科医 安藤恒平



お産に必要な
最低限のケアを
受けられない
人びとを助きたい。
助産師 高橋央



医薬品についての問題解決が
現地の医療環境を改善することを実感。
薬剤師 室町知隆



文化や背景の違う人びとから多くを学び、
自分の周囲にもそれを伝えられる。
麻酔科医 三浦由紀子



多くの方の寄付と支援の気持ちを
現地に届け、現地の様子を
人びとに伝えることで橋渡しを。
財務 森川光世



国際的な活動を重ねて
一つの仕事を極める。
自分自身へのチャレンジ。
ロジスティシャン 小口隼人



若さと好奇心で、
日本ではできない
経験が待つフィールドへ。
会計 外村圭介



国を問わず、困難な状況にある患者さんに
自分のできることを少しでも役立てたい。
小児科内科医 小林さより

長期にわたり医療が不足する地域で、紛争や災害の現場で、医療を提供する国境なき医師団 (MSF)。
活動の場は世界70*の国と地域に及び、
外国人派遣スタッフ約6400人と現地採用スタッフ約3万人*が、
それぞれの専門性を発揮して、現地のニーズに対応しています。*2011年実績

医師、薬剤師、メカニック、人事スタッフ……。 困難な環境下で、 専門性を備えたチームが 活動を可能にする

MSFの援助活動に従事するのは、医師や看護師たちだけではありません。医療を提供するためには、スタッフが活動を続けるための医療施設・物資や住居の準備、現地採用スタッフの雇用、財務管理など、医療活動を支える環境を整える必要があります。そして、当然ながら、現地でそれらを実行できる人材が求められます。

日本をはじめ各国の事務局では、年間を通して、さまざまな職種の採用活動を行い、登録者として確保しています。世界各地域でのプロジェクトを運営する5つのオペレーション・センター(右図参照)は、現地ニーズ調査に基づいて必要な派遣スタッフの職種と人数を割り出し、事務局が、職域と派遣期間等が

合致する人材を推薦、オペレーション・センターとの調整を経て、派遣スタッフが決まります。

また、現地スタッフを多く登用することも、MSFの特徴の一つ(右ページDATA 2参照)。海外から派遣される専門性の高いスタッフと、現地の事情に通じた多くのスタッフがー丸となってチームで活動を展開しています。

さらに、オペレーション・センターや活動地の国の首都に置かれるコーディネーション・チームも、現地チームと連携しながら活動をサポート。多年にわたる数々の援助活動から、最も迅速に、最も効果的に、最も多くの人びとを援助するためにMSFが導き出したチーム編成なのです。

今すぐ援助の必要な場へ！

「グローバルなチームプレーで連携するスタッフたち」

南スーダン／ 難民キャンプのチーム例

何もない土地に作られる難民キャンプは多様な職種が求められる活動地の一つ。2011年半ばに激化したスーダン政府軍と武装勢力間の紛争により、2012年末までに17万人以上のスーダン人が国境を越えて南スーダンに逃れた。MSFは南スーダン北部のイダなど5カ所の難民キャンプに駐在し、野外科院を設けて必要な治療にあたっているほか、水・衛生活動なども行っている。

5カ所の難民キャンプで働くスタッフ数
(2013年1月時点)
海外派遣スタッフ: 116人
現地スタッフ: 874人

オペレーション・センター
★フランス／スペイン／ベルギー／オランダ／スイス
世界各地で展開する援助活動を計画・運営。

世界各国から派遣されるスタッフ

現地活動チーム
5カ所の難民キャンプで活動。

コーディネーション・チーム
南スーダンの首都ジュバには、活動責任者が指揮するコーディネーション・チームが置かれ、オペレーション・センターと連携して、北部の難民キャンプで活動するチームをサポート。

アドミニス レーター 人事スタッフ／ 財務スタッフ

現地採用スタッフの雇用契約や給与支払いなどの人事管理、予算管理や経理・会計などの財務管理を主に担当。活動プログラムによって業務は多岐にわたる。人事や財務それぞれに特化した職も。

心理療法士 (臨床心理士)

難民の多くが、紛争や暴力被害の体験、肉親や生活環境の喪失などで心の傷を負っている。心理療法士はそうした人びとの心理ケアを担当。南スーダンのイダ難民キャンプでは、恐怖感や不安感などでストレスを抱える難民1万6000人以上を対象に、グループセッションなどのケアを実施。

プログラム責任者

首都のコーディネーション・チームと連携して、現地でプロジェクトのマネジメントを行う。医療ニーズの推移に応じて、物資のみならず人材面でもよりよいチーム編成を見極め、対応にあたる。

※写真はイメージ
©Francesco Zozila/Noor

医師

負傷者の治療や手術を行う外科医や整形外科医、麻酔科医、感染症や栄養失調の治療などにあたる内科医や小児科医のほか、産婦人科医、救急専門医など現地のニーズに応じて派遣された専門医が医療活動にあたる。南スーダンの難民キャンプでは、不衛生な環境や寒さが引き起こす下痢や呼吸器感染症、E型肝炎などの患者を中心に内科医らが治療を行っている。

看護師

外国人派遣スタッフは患者の看護や手術の介助にあたるほか、現地採用スタッフの教育や指導、病院の衛生管理などを担う。南スーダンでは、現地看護師への予防接種のトレーニング、地域の保健衛生を担うヘルスワーカーの教育なども担当。

助産師

紛争や災害にさらされる地域でも、日々子どもは生まれる。環境が整わない中でも安全な出産が行えるよう、妊娠中から出産・産後まで母子の健康をサポートする。南スーダンのイダ難民キャンプでは、現地の伝統的な助産師への教育や重度の栄養失調新生児に対するケアも行っている。

薬剤師

薬局の運営、医薬品の在庫や保存環境の管理と現地スタッフの教育を行う。医薬品の使用許可などについて、現地政府との交渉にあたるケースも。南スーダンのイダ難民キャンプでは、雨季などの自然環境の変化や紛争などの影響による患者数増減を予測し、医療資材や医薬品の発注を管理している。

最良の医療を提供し 自らも能力を高め合う チームMSF

カリン・ヴァン ホートウ
MSF日本人事部長



派遣スタッフとして各国で援助活動に参加。MSFルクセンブルクの人事部長、事務局長を経て、現職。

MSFの活動で何より大切なのは、最良の医療を提供すること。当たり前なのですが、普段と異なる場所で、ときには危険をとまぬ状況下にあっては難しいことです。それを可能にするのは、何よりも柔軟な姿勢と創造性。さまざまな国籍のスタッフとの意思疎通や、設備の不十分な環境でも臨機応変な対処ができなければ、いくら高いスキルがあっても発揮できません。また、自分の仕事をこなすだけでなく、現地の人に技術や知識を伝える能力も重要です。それらは、MSFが活動を引き継いであとの、その地域の将来に欠かせないものだからです。

一方で、チームとして働くスタッフや現地の人びとから学ぶことも少なくありません。多様な文化や思考に触れて視野が広がるとともに、互いを理解し、共生の道を見いだす機会が得られるのです。私自身、派遣スタッフとして働いていたころ、自国に戻ったときにいつも衝

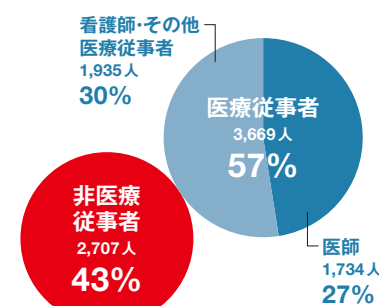
撃を受けていました。何ヵ月かの現地生活で、それまで自分が当然のように手にしていたものを持たない人びとを目の当たりにして、自分が恵まれていることに無自覚だったと気付くのです。技術的な学びもあります。たとえば高度な教育を受けた先進国の医療スタッフでさえ不可能な治療を、現地の医師が行えるケース。制約の多い環境での医療が当たり前なため、高いパフォーマンスが発揮できるわけです。そのほか、語学力はもちろん、チームをいかにマネジメントするかなど、援助活動の結果としてさまざまな能力を高めることにもつながります。

私たちは、プロとして援助活動に取り組んでいる誇りがあります。MSFが活動するのは、一刻も早い治療の必要な人びとが存在するあらゆる場所。より迅速で広範囲に対応するために、幅広い分野で専門性の高い人材を数多く求めています。

DATA チームを構成する人材

1 非医療従事者が4割強

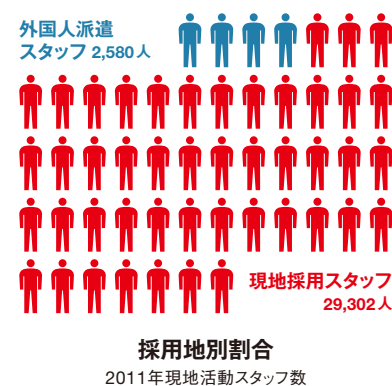
活動地では多様な職種の専門家が働いています。現地のニーズに合わせた医療従事者だけでなく、物資の調達から財務・人事管理担当まで、じつに多くのスタッフが各国から派遣されます。医師らが医療に専念できる環境づくりに励むこれら非医療系スタッフの数は、全体の約4割を占めています。



外国人派遣スタッフの職種内訳
2011年の派遣回数

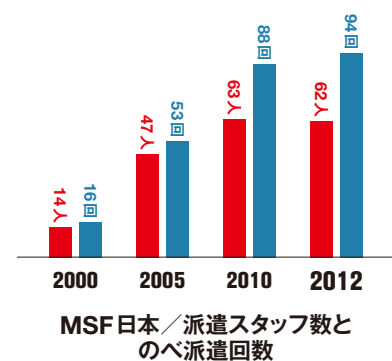
2 現地活動スタッフの9割は現地採用

MSFでは、さまざまな国籍のスタッフが働いていますが、活動地でも多くの現地スタッフが採用されます。彼らは国内の政治・医療・文化・治安・交通など諸事情に通じ、MSFの活動終了後には、将来にわたって地域の医療や衛生環境改善などを担う役割が期待されています。



3 MSF日本からの派遣も年々増加

諸外国から活動地へ派遣されるスタッフの数に比べれば、MSF日本からの派遣数はまだ多いとは言えません。しかし、その数は着実に増加しており、2012年は62人へのべ94回、27の国・地域に派遣され、援助活動を行いました。



COLUMN

ニーズに即して 多様な職種が参加！

MSFが赴く活動地の事情やニーズはさまざま。適切で効果的な援助を実現するため、それぞれの活動に必要な職種のスタッフが参加します。



©Emily Clifton

【疫学専門家】

感染症流行への対応、症例確認、予防接種、水・衛生システム改善など、介入方法や地域特定の疫学的調査と企画立案を支援するほか、罹患率や死亡率調査の監督、調査システムの構築・評価などを担当。

【建築、建設専門家】

提供する医療内容のみならず、現地の地理、気候、情勢などを考慮して、最適な規模・内容の施設を設計、建築。大規模資材の調達なども現地スタッフや現地業者と連携して行う。

【IEC Information Education Communication】

活動地の文化・慣習等を把握し、MSFや現地で行う医療活動をわかりやすく人びとに説明するとともに、予防・衛生面でも知識・習慣を伝え、実践を促す。社会学や文化人類学、マネジメント等の専門性が役立つ職種。

【ドライバー、警護】

現地の事情に詳しい現地採用スタッフが担当。車両はスタッフの移動や車での移動診療時に使用される。警護担当はスタッフと患者の安全を担うが、ソマリアを除き、武器は携帯しない。

ロジスティシャン メカニック／水・衛生管理スタッフ

物資のサプライ・チェーン(調達・物流・供給などの一連の流れ)、施設の建設、通信機器・車両管理など活動の基盤づくりを担う。下痢や他の感染症で多くの命が失われていた南スーダンの難民キャンプで、MSFは野外科院の開設、水供給設備やトイレの増設などを行い、死亡率を低下。イダ難民キャンプでは、悪路のため小型飛行機により物資を搬入した。

Frontline

Vol.05 March 17, 2013

企画・制作
国境なき医師団日本
朝日新聞社広告局**広告特集**

イエメンやパキスタンなど、派遣先の経験から感じるのは、MSFの活動がよく練り上げられたシステムに基づいていることです。たとえば私たち医師が使う道具一つとっても、治療環境が整わない現場ですぐに使えるセットが用意されています。開腹手術用、下肢の骨折治療用とニーズごとにシンプルなセットがそろい、ケースを開けばすぐに治療が始められる。不衛生な治療環境の場合、どの程度清潔さを保てばよいかを具体的に示すマニュアルもあります。どこへ派遣されてもスムーズに活動に入れるのです。

医師が多くのスタッフに支えられているのもMSFの特徴でしょう。現場では、通常私と現地の若い外科医がいるぐらいで、日本のように大勢の外科医がいるわけではありません。しかし、医師を支えるスタッフはじつにさまざま。現地の看護師たちとその統括にあたる派遣スタッフの看護師はもちろん、医療に専念できるよう種々の業務を担当するスタッフもかなりの数にのぼります。パキスタ

ンでは、ハンガーという町で活動しましたが、首都イスラマバードに各地の活動を統括するコーディネーション・チームがあり、オペレーション・センターと連携して活動地をしっかりと支えてくれる。スタッフと組織の分厚いサポート体制を実感しました。

派遣先では、日本と全く違う環境で医療を行います。スタッフは多国籍で、文化や宗教の違いから患者の治療に対する考え方も違います。しかし、対照的な環境での仕事にだれしも刺激を受

「一番教えられ、助けられているのは自分自身です」

**田辺 康**

外傷外科医／札幌徳州会病院

MSF派遣歴：スリランカ／イエメン／パキスタン／シリア



©MSF

けるはず。また、安全な日本では大きなけがは減っていますが、活動地では重傷を負った多くの若い命を助けられるので、外傷医として、とてもやりがいを感じます。現地の若い医師や看護師たちへの教育は活動の大切な部分ですが、じつは一番教えられ、助けられているのは自分だという気持ちで帰ってきます。勤務をやりくりして年に合計1〜2ヵ月活動へ参加するのは大変ですが、私には日本人が顔の見える支援をすることは大事だとの信念があります。日本の仕事仲間や家族に深く深く感謝しながら、それでも自分は意義ある活動に取り組んでいると胸を張るようにしています。

チームを支え、自らを生かす派遣スタッフたち

私はロジスティシャンとしてMSFの活動に参加しています。主な役割は、医療スタッフが活動を行う環境を整備・維持することですが、作業は数限りなくあります。活動地には普段当たり前に見える水や電気がなかったり、地理的気候的な要因などで物資の供給が思うように受けられない時もあります。そんな中で物資をそろえ、移動や通信手段を確保し、ときには病院を建設するわけですから、常識的な方法だけで仕事はやり遂げられません。一番大切なのは、チームワーク。「人命救助」という活動の原点を再確認しあいながらモチベーションを維持し、お互い知恵を絞って解決するのです。



©MSF

「困難な状況に対応するとき、何より大切なのはチームワーク！」

**小口隼人**

ロジスティシャン

MSF派遣歴：スーダン／コンゴ民主共和国／ハイチ／シリアなど

コンゴの山奥では車の車軸が完全に折れて呆然としましたが、現地のメカニックが応急処置をして何とか走らせたこともありました。MSFには豊富な経験に基づいて、さまざまな機材と活動指針や具体策が用意されていますが、それでも予期せぬ事態は起きます。臨機応変に自ら解決策を見つけねばなりません。時間と資源の制約があって難しいことですが、ロジスティシャンとしてのやりがいも感じます。

2007年のスーダンへの派遣以来、8

回の経験で学んだことは大きいですね。異質な文化や価値観とダイレクトに向き合って働くうちに、以前と違う視点で日本を見られるようになりました。同時に、どの国の人間も自分となんら変わらないということを実感します。

大学院卒業後、夢中になって取り組める仕事を極めたいと思い、活動に参加するようになったのですが、しだいに、ああ、ここで自分の能力が生かせるんだと自信も付いてきました。ハイチ大地震のとき、非日常的な環境で自問しました。なぜ自分はここにいるのかと。MSFの活動は、寄付をする人から、現地で実際に活動するスタッフまで、いろんな立場の人がかかわっています。人はだれでも、それぞれ役割や特性がある。それを手がかりに自分ができることをすればいいと気付いたのです。そうそう、学生時代にサッカーをやっていたので、現地スタッフと一緒にボールを追いかけることも。コミュニケーションを円滑にする効果があって、これも特性を生かしているのかもしれない。

MSF日本 人事部より

遠い世界のことでなく 最初の一步を 踏み出してほしい

森川光世

MSF日本フィールド人事マネジャー。MSF日本ファンドレイジング部勤務、派遣スタッフ財務担当を経て、現職。



MSF日本ではウェブサイトにて海外派遣スタッフを常時募集していますが、東京や大阪をはじめ各地で説明会も定期的に開催。採用プロセスやMSFの仕組み、その後のキャリアプランなどの情報を提供しています。また、病院での出張説明会も行っています。応募後は書類審査、面接を経て採用に至りますが、採用条件に満たない場合も、こちらから語学力や国際経験などについてスキル向上のための助言をし、努力して再チャレンジする方もいます。そんなMSFへの強い思いはとても嬉しいですし、人道援助の世界で力を発揮したいと思うくださる方のために、リクルートから活動参加までの全行程を日本事務局のフィールド人事チームが担当します。

毎年1ヵ月だけ現地活動をしたり、半年間現地に行つては2ヵ月休むなど、参加の仕方はさまざまですが、確固たる意志を持って活動に長くかかわるのは日本人の特徴です。

現地で成果を上げるには、スタッフ一人ひとりの高い能力とチームワークが不可欠。その点、専門的スキルが高く和を大切に日本人は良い影響を与えていますし、現地の人となじむにも強みになります。ときには謙虚すぎたり、勤勉すぎて心配なこともあります。だれもが自分の意見を求められるフラットな環境は、タテ社会の日本では得にくい経験。現地で培ったコミュニケーション能力は、今後、日本でも求められるようになるのではないのでしょうか。

海外派遣の募集要項や説明会の日時などはこちら

➔ www.msf.or.jp/work



©MSF

海外派遣スタッフ募集説明会

Frontline 編集部より

平素より『Frontline』に関心をお寄せいただき、ありがとうございます。このたび、皆様の声をお届けいただくための下記専用メールアドレスを開設しました。お電話も従来どおり、右記番号で承っています。今号では、援助活動の人材と連携をご紹介しましたが、この活動を可能にするのは皆様からの支援です。また、今後もスタッフ自身が証言者となり、現地で向き合う患者さんの窮状をお伝えしていきます。引き続き、ご支援・ご鞭撻(べんたつ)をよろしくお願いいたします。

➔ frontline@tokyo.msf.org

国境なき医師団／Médecins Sans Frontières(略称MSF)は、1971年にフランスで設立された非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体。

MSFは、「独立・中立・公平」を原則とし、人種や政治、宗教にかかわらず無償で医療を提供する。また、援助活動の現場で虐殺や強制移住などの著しい人権侵害や圧倒的な医療の不足を目の当たりにしたとき、医療だけでは人びとの命を救うことができない現状を国際社会に証言している。1999年、ノーベル平和賞受賞。

MSF日本は1992年に設立され、2012年までに280人のスタッフを、のべ778回、活動地に派遣。MSF日本の活動資金はすべて、個人を中心とする民間からの寄付金でまかなわれている。

Frontline

国境を超えて命と向き合う

[フロンタイン]
2013年3月17日発行
第5号

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

www.msf.or.jpお問い合わせ **0120-999-199**

通話料無料(9:00〜19:00／無休)

